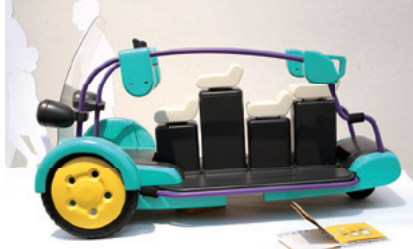
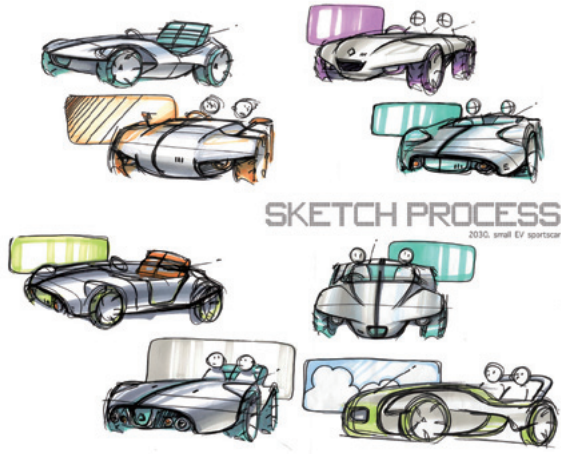


名古屋芸術大学グループ 通信

33
October
2015

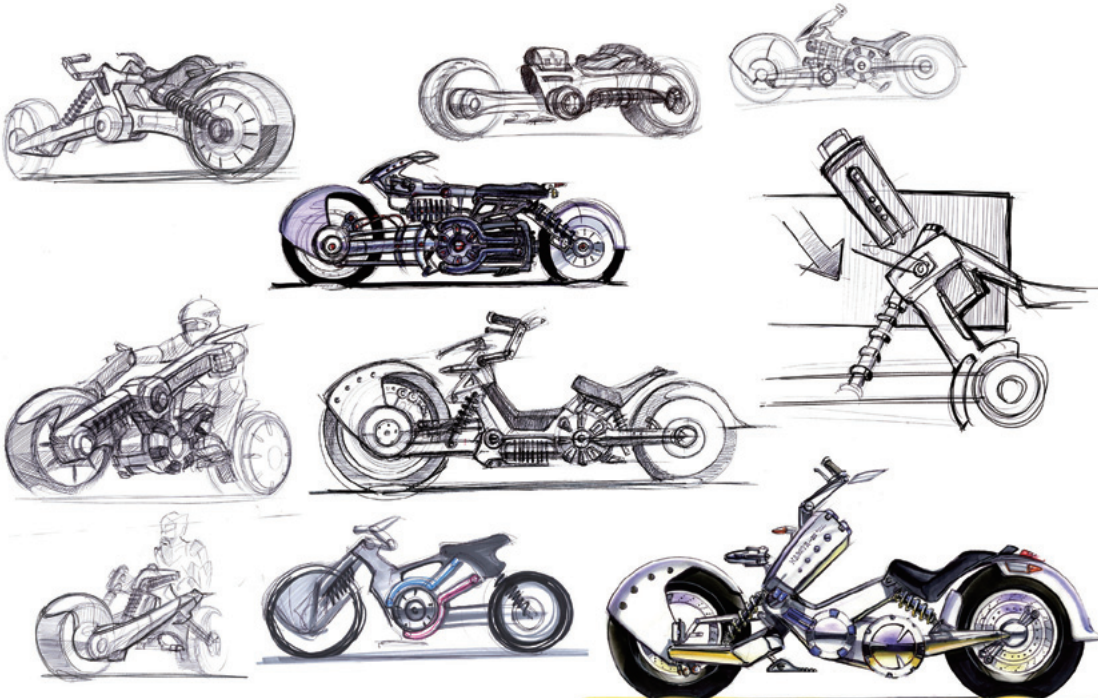


カーデザイナー育成の夢工場
＜新設＞カーデザインコース

Car Design



NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS NUA
DEPARTMENT of DESIGN PRODUCT AND SPACE BLOCK



Close up! NUA-ism
～進化する「名古屋芸大」のDNA
NUA-OB
「わかった!」がこんなうれしいとは
菅野謙一

NUA-Student
美術学部 陶芸コース 4年
宇佐美容子
大学からのお知らせ
■名古屋芸大グループ
木相セミナーハウスの閉鎖について

International exchange Activity【国際交流活動】
海外の学術姉妹提携校との交流活動など
■2015年度前期来訪交換留学生
(美術・デザイン学部)の作品展

News/Topics
ニュース&トピックス
音楽学部
■演奏学科特別演奏会
「コンチェルトの夕べ」
■名古屋の夏はジャズが熱い!
「NAGOYA GROOVIN' SUMMER 2015」が行われました
■第17回ピアノ・サママーコンサートが
開催されました

人間発達学部
■人間発達学部の
オープンキャンパスが開催されました

美術学部・デザイン学部
■美術学部・デザイン学部の
オープンキャンパスが開催されました
■官学連携プロジェクト
「名古屋芸術大学×北名古屋市
市制施行10周年記念事業」
■一日芸大生
「みんなが芸大生になる日」が
開催されました
■芸術大学連携プロジェクト
Sky Over 1が開催されました

名古屋芸大グループ校特集
■クリエ幼稚園

コラムNUA
卒業生と話して考えたこと
デザイン学部教養部会講師 木村美奈子

Master Artist
マスターアーティスト
自分の演奏を探して、伝えて
音楽学部 教授 森 典子

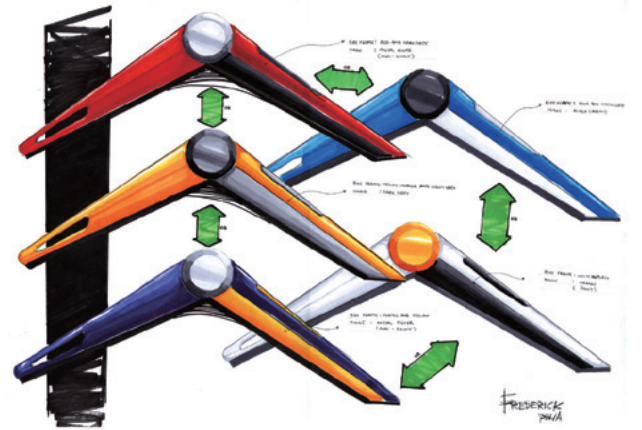
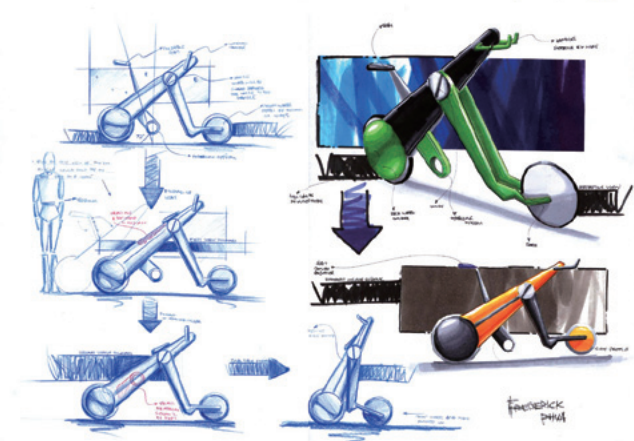
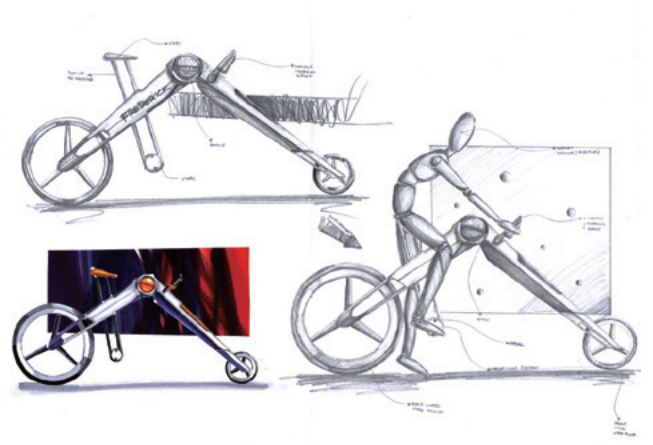
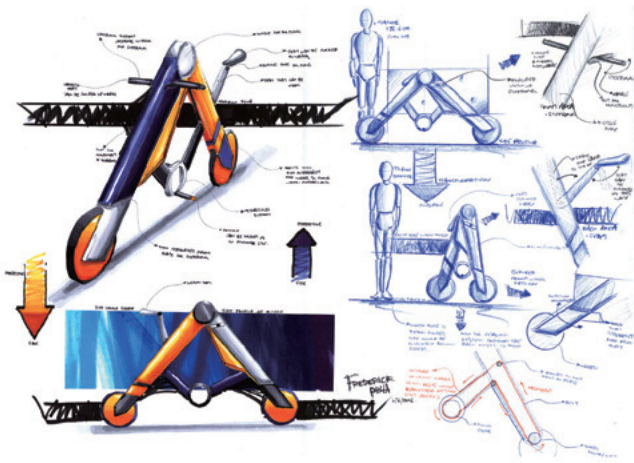
Information
インフォメーション
■名古屋芸術大学2016年度入試日程
■アート&デザインセンター
2015年度展覧会スケジュール
■2015年度
音楽学部演奏会スケジュール



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

- 名古屋芸術大学/大学院: 音楽研究科 学部: 音楽学部
- 名古屋芸術大学保育専門学校
- 名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
- 名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
- 名古屋幼稚園 ■たきこ幼稚園
- 名古屋音楽学校(名古屋芸術大学 系 サテライト)
- 音楽研究科 美術学部
- デザイン研究科 人間発達学部
- 人間発達学研究科 人間発達学部



Car Design

カーデザイナー育成の夢工場
<新設>カーデザインコース
 NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS NUA
 DEPARTMENT of DESIGN PRODUCT AND SPACE BLOCK



デザイン学部プロダクト&スペースブロックが2016年度から再編され、新たにカーデザインコースが設置されることになりました。従来から名古屋芸術大学では、インダストリアルデザインコースに含まれる形でカーデザインを学ぶカリキュラムがあり、これまでも企業の第一線で活躍するデザイナーを数多く輩出してきました。来年度からは専科として、より深く高度なカリキュラムを提供できる体制へ、再編されることとなりました。今回の特集では、カーデザインコース担当の片岡祐司教授に、カーデザインコースのこれからについてお話を伺いました。





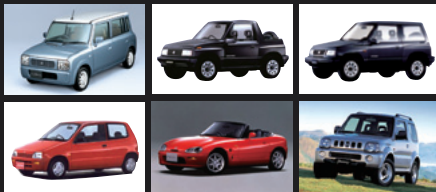
片岡 祐司
デザイン学部
教授

武蔵野美術大学
造形学部工芸工
業デザイン学科
卒業 同校ID研究室勤務

1980年 スズキ株式会社入社、エクステリアデザイ
ナーとして生産車、ショーモデルの開発を担当チーフ
デザイナー、先行開発グループ課長、小型車グループ
長を歴任

2002年 スタジオ担当としてスズキ(株)デザイン部全
スタジオの統括管理

2005年 名古屋芸術大学助教授



グッドデザイン賞受賞作品

- 1988年 アルト
- 1988年 エスクード・コンバーチブル
- 1988年 エスクード・ハードトップ
- 1990年 エスクード・ノマド
- 1991年 カブチーノ
- 1994年 アルト
- 1994年 エスクードV6
- 1998年 ジムニー
- 1998年 Kei
- 2001年 MRワゴン
- 2003年 TWIN
- 2005年 スイフト

>東海地方にはクルマ好きが多い!?

-カーデザインコースを設置する目的はどんなところにあるのですか?

日本の場合、自動車というもののプロダクトデザイン、インダストリアルデザインの世界でメインに扱われていなかったのですが、世界的に見れば、非常に重要なポジションを占めています。最近では、自動車がグローバルな商品となり、国内においてもカーデザインが多くの関心を集めるようになってきました。

こうしたことを受けてカーデザインを専科のコースとして分けることにしましたが、そこには二つの大きな目的があります。一つは、説明したとおり、カーデザインというものがしっかりと認知されてきたということ。もう一つは、大学でカーデザインを学べるところはまだまだ少ないのですが、それでも競争が厳しくなってきた現状があり、早いうちに充実させていくのが良いだろうという判断です。これまで本学では、インダストリアルデザインコースでカーデザインを学ぶことができたのですが、専門のコースを設置することで、より本格的に、より充実したカリキュラムを提供できるようにしようと考えています。これまでも多くのOB、OGを輩出していますが、さらに推し進めることでこれまでのアドバンテージを確固としたものにしたいと思っています。

-東海地区の大学に専門のコースが設置されるということに非常に意義を感じます。

そうですね。東海地方には自動車メーカー、自動車関連企業がたくさんあるということもそうだし、また特にこの地方の人は自動車を好きな人が多いように思います。女子学生であっても、自分自身が車に乗っていたり、運転することが好きだったり、車が好きな人がいます。車に触れている、車との接点が多い土地柄だからなのでしょう。例えば、東京ならば生活に必要でない人、車に全く触りもしない人がたくさんいらっしゃいます。その点、ここならば、女性であっても、車の話に乗ってくる学生がたくさんいますね。

>女性も活躍できる分野

-カーデザイナーに女性のイメージはあまりありませんでしたが、増えてきているのでしょうか?

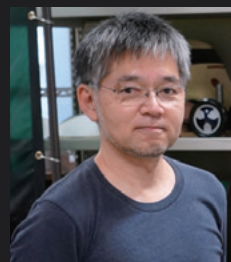
女性でもカーデザインの分野に就職する機会が増えてきています。特に、軽自動車やカラーの分野という女性には絶対に必要な存在になってきています。本学も女子学生が多いですが、そういった道に進もうという学生がかなりいます。比率でいえば、半々、いや半分以上ですね。今の3年生なら、インダストリアルデザインコースですが、女性が6割といったところ。面白いのは、車のとらえ方が少し男子学生と違って、仕事として自動車会社がいいと考えている人が多いようです。自動車メーカーは、企業として安定感も抜群です。企業側としても女性的な感覚を求めている現状があります。従来にくらべ、車のボディーカラーやインテリアのカラーバリエーションが増えてきていますが、カラーの分野ではすでに多くの女性が活躍しています。インテリアのデザインなどは女性的な能力を発揮できる、やっていて楽しい分野ではないかと思います。



>2輪、4輪、クレイモデル 3つの分野で確かな力を育てる

-カリキュラムの特色は、どんなところですか?

まず、デザイン学部全体で1年次にファンデーションで基礎的な実技を学びます。カーデザインを専攻しようと考えていても、実際にやってみると変わってくるが多々あります。また、逆に他の領域を志望していたものの、カーデザインをやってみようという学生も出てきます。1年次のファンデーションで、まずは試してみて、自分の専門を考え選択することができるようにします。コース選択は、2年からとなります。専科としては、スケッチをやり、レンダリング、実技指導、クレイモデル……、理論系も学びますし、文字通り一通り1から10まで、企画からモデルまで、すべてを習得します。この中で特色といえば、なんといっても設備とモデル制作ですね。これは、他の大学とくらべても突出しているのではないかと思います。本学には8つの工房がありますが、他のどの大学よりも工房の設備とサポート体制が充実しています。技術員をそれぞれの工房に付けているということは他の大学ではなかなかないことなんです。クレイ工房では、技術職員にカーモデラーが入っておりまして、手取り足とり、非常に質の高い技術を学ぶことができます。モデルの指導は日本でも一番充実していると思いますよ(笑)。



クレイ・
プラスチック工房
担当技術職員
松本博仁

2011年 日本カーデザ
イン大賞ゴールドンク
レイトロフィー受賞



企業との結びつきが大きいことも特徴です。本田技術研究所さんでは、毎年デザインプロセスやテクニクを学ぶ「ホンダデザインセミナー」というイベントを関東、関西、東海の3地区で開催していますが、東海地区は本学で共同開催しています。オープンなセミナーでデザインを学ぶ大学生や院生が集まりますが、本学で開催されるため、本学の学生が多数参加できる利点があります。カラーデザインの授業は、スズキ株式会社さんに、このところ毎年お願いしています。色のデザイン、ポディーカラーから内装の色、それから素材など、実際のサンプルなど提供していただき、進めています。他の企業の方も、本学に来られたならば、できるだけ講義を実施していただくようお願いしています。ただの企業説明だけでなく、デザインの授業を1、2時間はやって下さいとお願いし、企業の力を借りて進めています。

もちろん教授陣もしっかりとしています。オートバイに関しても、スズキ株式会社の部長経験者を客員教授として担当いただいています。

こうして、2輪、4輪、クレイモデルと、3つの分野でしっかりとした育成ができるようになっていきます。

>コミュニケーション能力よりもまず実力を

-車づくりは、大勢の人と共同で作業する必要があります。昨今、実社会でコミュニケーション能力が重要とよく言われていますが、カーデザインでは一層重要視されるように思いますがいかがでしょう？

そのあたりは一つの課題でもあります。企業も、そのような部分はよく見えています。実習やインターンシップでは、その可能性を確認しています。学生にもよく言うのですが、「仲間として一緒にやっていけるかどうか、企業は見ているんだよ。そこで仲間になれないと駄目だから」と言っています。ただし、無理をする必要はありません。人それぞれキャラクターがありますが、できないことまで無理することはありません。仕事となってしまうようなことを言っているひまもなく、実際にこなしている仕事の間われます。仕事の成果や内容のほうが、当然重要なのです。

しっかりした企業であれば、それぞれ個人のキャラクターを把握したうえで、より適した仕事を振っていきます。何かポテンシャルがある部分があれば、それを使い切るというのが企業の論理です。共同で作業するプロセスも大切ですが、それ以前の基本的な実力を磨くことのほうが大事だと思います。

-しっかりとした力をつければ自分に合った仕事があるということですね。

自動車のデザインという分野には、さまざまな仕事があります。プレゼンテーションがうまくできない苦手だという場合でも、モノを作りたいならば、モデラーであったりコンピュータを使った作業など、逆にチームでの作業が好きな人は、内装系のデザインに向いています。内装というのは部品点数が数千にもなり、多くの人数で寄ってたかって進めていく作業になります。必ず、自分のキャラクターに合った領域の仕事が見つかると思います。

>とにかく絵を描く！ 努力を惜しまな

-カーデザインを志望する学生にどんなことを望みますか？ どういったことが大事なのでしょう？

まず車、乗り物に興味があることですね。動くものに興味があるということがとても重要です。実際に学んでいく過程では、スケッチを描くことが非常に多いですから、デッサンをしっかりやってきて欲しいですね。手を動かして描くことが、美術の学生を含めても、学校のどの領域よりも多いと思います。何百枚何千枚と描きますから、描くことが好きでないと厳しいかもしれませんね。描くことさえいとわなければ、ほかのことについてはある程度の力があれば、カーデザインの世界にはいろいろな分野がありますので、何とかするのはないかと思えます。

専科ではありますが、専門学校のように一つのことだけをやればいいというわけではないということも大事なことです。一つのことだけに取り組んでいければ、スペシャリストを養成することができるかもしれませんが、総合的に物事をとらえて判断するような、ゼネラリストの育成は無理なのではないでしょうか。一つの技術を磨くということは大事なことです。それだけでは統括したりだとか、マネジメントであるとか、プロデュース業であるとか、企画であるとか、そういう仕事には向いていません。大学で学ぶことの意味は、プロセスを理解し、各分野がどうやってつながっているかを理解し、そのうえで自分の専門があるという、さまざまなことを理解できる人材を育成することです。大学の間に幅広い領域のアートに触れ、早い段階で基礎のいろいろを学んでおくということが非常に重要であると考えています。



宮地善和 1991年卒
マツダ株式会社 デザイン本部
デザイン開発推進部デザインプロモーショングループ
(デザインエキスパートチーム)



寺西由紀子 2009年卒
マツダ株式会社 デザイン本部
モデリングスタジオ クレイモデルグループ



権坂泳 1999年大学院卒
トヨタ自動車株式会社



さらに言うなら、こうした絵を描くこと幅広く同時に深く学ぶことを理解したうえで、努力をすることが重要です。枚数を描くだけでも相当な努力が必要です。大学に入って2年間3年間というのは、人生を左右する本当に大切な時期です。この時期に、どれだけ努力をしたか、力をつけられたかどうか、それが後々に係ってきます。どれだけ勉強するか、どれだけ研究するか、どれだけ絵を描くか、それができた人がやはりデザイナーになっていきます。

-最後に、カーデザインの魅力についてお聞かせ下さい。

自分の作ったものが街の中を走り回るとい信じられない楽しみがあります！ ヒットすれば1日何十台もみますよ(笑)。自分の作ったものをいろいろの人が使ってくれているのを実感することは素晴らしいことです。

それから、車という耐久消費財は、一度世に出たものは、10年、20年と世の中に残っていきます。古い車で大事にされる方がいらっしゃいます。ある程度歴史にも残りますし、そういう楽しみもあります。

作る過程が面白いと感じる人も多くですし、できあがったものが走りまわる姿を見て喜びを感じる人も多くです。福祉車両など社会に貢献できたということを感じ喜びを感じる人もいます。単純に大きいものを作るという喜びもあります。自分の作ったものが世の中に受け入れられていく喜びを、ぜひ味わって欲しいですね。

卒業生の就職先

>2014年までインダストリアルデザインコース卒業生の実績

トヨタ自動車株式会社、日産自動車株式会社、株式会社本田技術研究所(2輪、4輪)、マツダ株式会社、スズキ株式会社(2輪、4輪)、三菱自動車工業株式会社、富士重工業株式会社(スバル)、日野自動車株式会社、ダイハツ工業株式会社、ヤマハ発動機株式会社、トヨタ紡織株式会社、林テンプ株式会社、株式会社東海理化、アイシン精機株式会社、中央精機株式会社、株式会社テクニカルリンクデザイン、株式会社日南、株式会社アーク、株式会社エヌティデザイン、株式会社ボンフォーム、サカエ工研工業株式会社、株式会社ワールドエッチング、他

>最近10年間の自動車関連就職状況

デザイナー、モデラー・・・46名 自動車メーカー(2輪、4輪)・・・24名
自動車関連メーカー、デザイン会社、モデル制作関連会社・・・22名

デザイン学部 学科・コース一覧

メディア&コミュニケーションブロック	ヴィジュアルデザインコース
	イラストレーション
	メディアデザインコース
	メディアコミュニケーションデザインコース
ライフスタイルブロック	デザインマネージメントコース
プロダクト&スペースブロック	インダストリアルデザインコース
	セラミックデザインコース
	スペースデザインコース
再編	インダストリアル&セラミックデザインコース
新設	カーデザインコース
	スペースデザインコース
クラフトブロック	メタル&ジュエリーデザインコース
	テキスタイルデザインコース

カリキュラムの流れ

1年次 ファンデーション
抗議、実技の両面から基礎造形力の向上

幅広いデザイン領域を知り、2年次からスタートする専門実技に備えます。現在活躍中のデザイナー、プランナー、活動家を講師にお迎えして「デザインと文化」の講義など幅広いデザインの世界に触れることができます。

2年次 デザインプロセスを学習

カーデザインに必要な専門基礎力を学びます。プレゼンテーション能力の育成としてコンピュータ演習、デザイン演習では、調査、分析から新たなデザイン提案ができるまでのプロセスの訓練を行います。後期は、より専門性の高い基礎力を育成するため2コースの専門性に特化したカリキュラムを導入し、3年次からの専門研究テーマの展開力の基礎を学びます。

3年次 日常生活で触れるさまざまなジャンルへのアプローチ

専門性の高いカリキュラムを導入し、産学協同プロジェクトや学外コンペをカリキュラムに取り入れ、より実践的な能力を育成する指導を行います。

4年次 各種デザイン機関と連携し、卒業制作プロジェクトへ展開

自ら社会に対して提案すべき問題点を探っていく方法や、グループプロジェクトを導入、自分の力をチームで表現できる進め方を学びます。産学協同プロジェクト、海外姉妹校、インターシップ、大学院など各種デザイン機関と連携しながら、リサイクル、エコロジー、ユニバーサルデザインなどの視点を加え、実践感覚で学びます。

ReView展

ReView展

ReView展

卒業作品展



藤田寛 1994年卒
スズキ株式会社 二輪商品企画部デザイン課



阿部浩行 1988年卒
三菱自動車工業株式会社 インテリア&カラーデザイン部



竹下真紀 2007年卒
スズキ株式会社 四輪デザイン部インテリアデザイン課



これから先いろんな人に会うから、いいなと思うことがあったら、そこだけまねしてあげたい。その人がどんなに偉い人でも、おかしなことをいっているな、自分に合わないなと思ったら、やめればいい。そういうことを教えていただいたのが、大学だったり、自分の親だったり。それを子供たちに伝えていってだけです



会長を務める
人間発達学部の同窓会
名古屋芸術大学
人間発達学部同窓会

Find us on
Facebook

いろいろな人に興味を持っていただいて、知っていただくようにやっています。ぜひアクセスを。



Vol.67
NUA-OB

菅野謙一

(すがの けんいち)
小学校教諭

1988年 愛知県生まれ
2011年 人間発達学部 子ども発達学科卒業
2011年9月～ 弥富市内 小学校教諭

卒業後、9月から愛知県弥富市内の小学校へ常勤講師として着任。以降、同小学校へ勤務。2012年、採用試験に合格。人間発達学部同窓会、初代会長も務める。

「わかった!」がこんなにうれしいとは

スーツに合わせたクロップドパンツ、ドレッシーなクレリックシャツと、小学校の先生という言葉のイメージよりもずっと、お洒落な男性が現れた。とても大柄で、聞けば身長は182cm。子どもたちにとっては怖い先生だと想像したが、そうではないようで、話す言葉は何とも楽しげ。いつしか威圧感は薄らぎ、気心知れた従兄弟とでも話しているような和らいだ気分になる。きつと、子どもたちからも「兄ちゃん」といった感じで慕われていることだろう。本学人間発達学部の第1期生で、現在は弥富市の小学校で3年生のクラスを受け持っている。「採用試験は、3回目です。そのときの教頭先生に『ここで受からんと知らんぞ』みたいにいわれました」

小学校の先生を目指す場合、教員免許は取得できても採用試験で足踏みしてしまうことは誰もが知るところ。菅野さんも、ご多分に漏れず、在学4年次に受験した試験は不合格となった。「落ちてしまったので講師の仕事を探して、教育事務所へ講師の登録に行きました。津島市には海部教育事務所がありまして、友達と一緒に行って、一緒に書いて、一緒に申込書を出したんです。でも、どういうわけか僕のところには連絡が来ない。友達のところへは来ているのに、僕には講師の仕事が来ない」後に、記入漏れがあったのか不手際からか登録されていなかったことがわかるのだが、卒業しても仕事が決まらなかった。そんな折り、声をかけてくれたのが恩師だった。「伊藤孝照先生が『お前、どうなってるんだ』と中ぶらりんになっていった僕に気をかけて下さり、以前、校長を務めていた小学校の講師の口を紹介して下さいました」その小学校では、出産で休業する先生がおり、後任を9月という半端な時期から探していたのだった。運良く、行き先のなかった菅野さんに話が舞い

先生の仕事って、大変な仕事ですが、自分にしてみれば、そんなに大変というわけでもないんです。本当に好きでやっているの、たぶん大変だと思えないんですよ。できないこともたくさんあるし、できてないこともたくさんあるし、だけどそれが大変だとは思わない。楽しいんです。



講師1年目に受け持った児童の4年生修了を記念して作成したジグソーパズル。41枚(児童40人+教師)に分けられていてクラスが変わろうが、卒業して学校が変わっても4年2組であったことを忘れないように思い出に子どもたちが作りました。将来、同窓会など開いたときにみんなが持って集まれるといいねと話しながら渡しました。今でも自分にとっては大事な宝物です。

講師2年目、初めて4月からの学級経営。初めての一年生とても苦労しました。しかし子どもたちはいつも笑顔で自分と向き合ってくれました。最後のお楽しみ会の時に黒板に自由に書いていいよと伝えたら真っ先に「ありがとう先生」と書いてくれました。その一言でこの子たちの担任でよかった。担任ってすばらしいと思いました。



込んだ。「もう、すぎるような気持ちで引き受けました。本当に感謝しています。不思議な縁で今の小学校に赴任することになりましたが、今思えば登録されていなかったことが良かったのかと思いますよ(笑)」



学生時代にいくら実習を重ねても、実際に教師となって子どもたちに接するのは違うものだろう。どんなことが違うのか聞いてみた。「全然違いますよ。何が違うといわれても、全部が違う気がします。でも、逆にいえば、こんなにうれしいんだと思うことがものすごく違いましたね」児童に教える喜びはひとしおと語る。「楽なこと一つもないのですが、子どもたちと過ごしていくことが本当に楽しいんです。『わかった』といわれることがこんなにうれしいことなんだと知りました」話しながらも笑顔がはじける。教師という仕事に、いっそう魅了されていることがひしひしと伝わってくる。「こんなことをいうのも何ですが、学生時代に、もっと授業に出ておけば良かった(笑)。大学のときの授業を振り返ってみると、校長先生を経験された先生やこれま



子どもたちによく話すことは、箸の持ち方、茶碗の持ち方、やるときはやる、そういったことです。自分が子どもの頃できていなかったことなんで、それをみんなに教えてあげるよという感じがしています。やれよというのではなく、先生もこうやっていわれてたんで頭張ってやんなよ、絶対大人になってから得するよって教えてあげる感じです。でも、結構、細かくグジグジ小言をいってるかも(笑)



ピアノには苦労した。「18歳になってから始めたので苦労しました。まず、『ド』の音がわからない。ピアノは1年で終わるところを4年かかりましたね(笑)」

でもいろいろな大学で教えてきたプロフェッショナルの授業を、児童として受けることができるわけじゃないですか。こんな素晴らしいことないですよ! 今さらなんです、社会に出て自分で授業をするようになると、なんてもったいないことをしていたんだとつくづく思います」教育者として、教壇に立つ身としての率直な意見にうなずかされる。



自分のクラスでは、子どもたちに、たくさん話させることを心がけているという。「話すことはコミュニケーションの基本ですから、どうでもいような話でも何か声を出させるようなことを考えています。それが良いのか悪いのかはわかりませんが、とにかく話をしようと、声を出させようとやっています。僕が話し好きということもありませんが」たしかに菅野さんは、気軽に話しやすい人好きするタイプ。気軽なコミュニケーションの積み重ねが、友を寄せ、恩師の気を引き、現在に結びついたら違いあるまい。楽しげに話す表情の向こうに、元気にはしゃぐ子どもたちが見えるようだった。

「土」は、やったことがそのまま出ますね



Find us on Facebook
Vol.68
NUA-Student
宇佐美容子
 (うさみ ようこ)
 美術学部 陶芸コース 4年



「だっこ」 2014年
 素材：瓦粘土
 第8回飾り瓦コンクール
 高浜市長賞受賞

教授によくいわれるんですが、「ちょっといやだな、やりたくないな」という日に頑張ってる。そこでやるかやらないかで差が出てくる。やった分だけのことは、あとから付いてくるって信じたいです。



「団樂」 2014年
 素材：信楽白土
 W,D,H：写真右500,500,1100
 写真左500,500,1050

(「団樂」を撫でながら)触ってほしいんですよ。「よしよし」みたいな、「ポン」みたいな(ペチペチと叩く)



「土」というのは、やったことをちゃんと返してくれるというか、正直です。丁寧にやればうまくいく。丁寧にやるって、心掛けています。

ー陶芸を始めるまでの話を聞かせて

子どもの時から絵を描くことが好きで、中学、高校の頃はイラストの方へ進みたいと思っていました。



高校生になって芸術予備校に通うようになって、そこでいろいろな領域の体験をしたのですが、立体が面白くなりました。当時の先生が造形作家のようなこともやっていて、その先生から伝統工芸とかも面白いよと教えていただき、だんだんそっち方面への興味が強くなりやるなら立体かなという考えになりました。

ーじゃあ、ご実家が窯元だとか器を扱っているとか、焼き物とは関係ないんだ

四日市の普通の自営業なんです。萬古焼には頑張ってるんです(笑)。

ー飾り瓦コンクールに出品した作品(2014年第8回飾り瓦コンクール 高浜市長賞受賞)もそうだけど、作品が大きいね。よくこんな大きいのを作ろうと思ったね

面白いなという気持ちだけでこのサイズになっちゃいました。サイズを考えずに作っちゃったら学校の窯では焼けなくて、教授のお家の窯で焼かせていただきました。大きいのを作りたいんですけど、これから作るのは大変なのかなあとちょっと心配しています。工房を借りたりするのかなあ。どうしようかな……

ーもう4年生だけど、卒業後は? 作家さんになるの?

卒業後は、就職して働きます。一応、就活もしてきまして半田市の瓦メーカーに内定をいただいているんですよ。瓦粘土を使うので、自分の作っているものと近いといえは近いです。

ー瓦コンテストの作品が評価されたのかな?

そうですね、一応こういうこともやっていますと見せました。私は、「土」に関係するということで会社

に行っていたので、共通した面が気持ちをわかっていたところもあるんじゃないかと思えます。「土」好きアピールをしてきたので、そういうところ汲んでいただいたんじゃないかと。たぶん、全く、自分がやってきたことと関係のない分野の会社だったら、私じゃアピールするところがなくて難しかったと思いますよ。

ー自分のやりたいことができそう? 立体を続けていくには、ずっと作品を作り続けられる環境を確保することが大事だもんね

社員の方で、趣味で自分の作品を作っている方もいらっしゃるようで、そういうお話も伺って、いい会社だなと。なんとかして、私も作品を作り続けていきたいと思っていますので……

ー作品のことを聞かせて。このフォルムはどこから出てきたの?



寄り添う感じのイメージで作り始めて、最初は4つ割の形だったのが、もっと数を増やしてみようということで、たくさんのが引っ付いているような感じになっていっていきました。形がカボチャやピーマン

に似ているということで、一応ピーマンの模刻もしたりして、今度は動きのあるものをとやっていくうちにこうなってきました。

ー作り始める時にはきっちりイメージがあるの?

完成形のイメージは、なんとなくはあるんです。ひも状の粘土を積んで作っていくんですが、作っていくうちにその時の感情をわーっと込めていって、できた!という形なんです。結果、最初のイメージとは、全然違う形になってたりします(笑)。大きくて温かみのある感じのものが好きですね。

ー陶器って硬くて冷たいものじゃない。それを、温かくて柔らかい感じにしたいんだ

そうですね。温かかったり丸みのある方が好きなので。小さい子がベタベタ触ってくれるようだったら嬉しいですね。ろくろもやるんですけど、ろくろだとつい硬くなっちゃって、あまり好きじゃないんですよ。その点、手びねりだと気持ちが入りやすく、思いが形に直に出てくるので、そこが面白いですね。今は、ただ作ってるだけなんですけど、見てもらうことを考えて、喜んでもらえるのはどんなことだろうなと思うとすごく難しいですね。これまでは、ただただ作って自己表現というか気持ちがかもったものができて、「好きーっ!」って感じだったんですけど、それを見てもらい面白いとか喜んでもらったりするのはどんなのなんだろうなって思うと、難しいなって思います。

大学からのお知らせ
**名古屋芸大グループ
 木祖セミナーハウスの
 閉鎖について**

名古屋自由学院が設置する「名古屋芸大グループ木祖セミナーハ

ウス」(以下「セミナーハウス」という。)は次のとおり、平成28年3月31日をもって閉鎖することとなりましたのでお知らせします。
 なお、平成27年度セミナーハウスの運営は通常どおり行いますので、併せてお知らせします。

1. セミナーハウス閉鎖に至る経緯
 セミナーハウスは、本学院の教職員及び学生(園児)等の教育、課外活動等に20数年間にわたり活用されてきました。しかしながら、これまでの利用者数の推移及び施設の老朽化による修繕費等の

維持管理経費の増加が想定されることから、閉鎖することになりました。

2. セミナーハウスの閉鎖日
 平成28年3月31日
 (担当 総務部 総務課)

International exchange
Activity
 【国際交流活動】
 海外の学術姉妹提携校との
 交流活動など

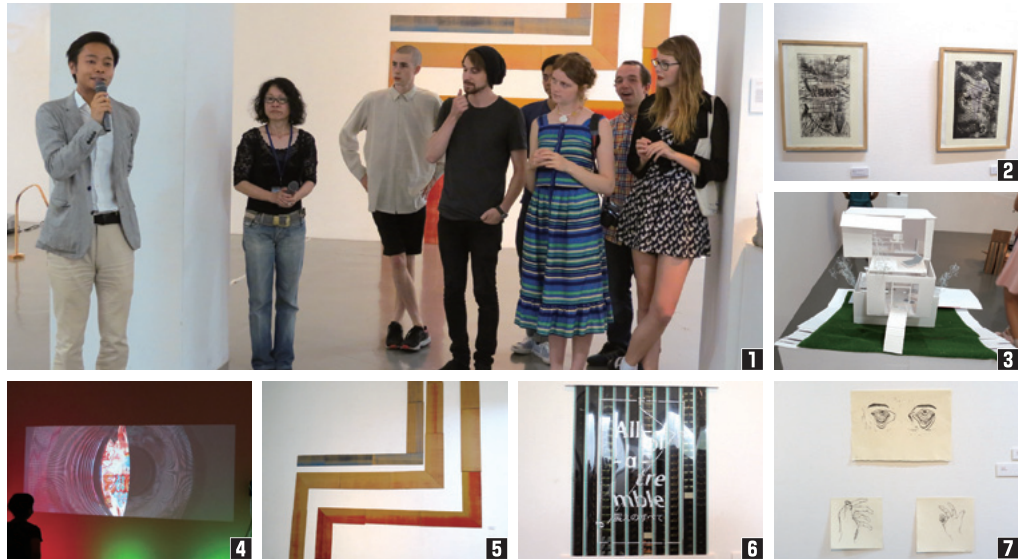
2015年度前期
 来訪交換留学生
 (美術・デザイン学部)の
 作品展

2015年度前期に、美術・デザイン学部(本学西キャンパス)に交換留学生として来訪した学生たちの作品展が、7月10日(金)~15日(木)まで、アート&デザインセンターギャラリーで開催されました。

この展覧会は交換留学生のアーティストたちが、この4月から4ヶ月間に亘り制作をした作品を集めた展覧会です。以前から専門としている分野、及び留学中に学んだ新たなアート・フォームやプロセスの展示になっています。

初日の夕刻より同センターにおいて、オープニングセレモニーが開催されました。

まず、国際交流センター長の水内智英氏より挨拶が行われ、続いて、センターの担当者加藤氏から留学生が紹介され、一人ひとりか



1挨拶をする国際交流センター長の水内智英氏(左)と留学生の皆さん(中央はセンター担当の加藤氏)
 2Nattant Boonyanuwatさんの作品
 3Georgia Iris Cottingtonさんの作品
 4Bethany Crawfordさんの映像作品
 5Damon Owenさんの作品
 6Harry Buttさんの作品
 7George Jacksonさんの作品

氏名	出身大学	本学における所属コース
Harry Butt	ブライトン大学	メディア・デザイン・コース
Bethany Crawford	ブライトン大学	メディア・デザイン・コース
Georgia Iris Cottington	ブライトン大学	スペース・デザイン・コース
Damon Owen	ブライトン大学	版画コース
George Jackson	ファルマス大学	アートクリエイター・コース
Nattant Boonyanuwat	キングモンクット工科大学ラカバン校	版画コース

ら簡単な挨拶がありました。
 本年度は、英国のブライトン大学から4名、ファルマス大学から1名、タイ国のキングモンクット工科大学ラカバン校から1名、合計6名の留学生が来学し、それぞれ

れ専門のコースに所属して、本学講師の指導や学生たちの協力のもと、さまざまな日本文化や伝統に触発されながら作品を制作しました。
 展覧会には、彼らの集大成とし

ての作品が展示されました。
 前期来訪交換留学生の氏名(出身大学)・本学における所属コースは上記の表の通りです。

News
 & ニュース&トピックス
Topics

音楽学部
**演奏学科特別演奏会
 「コンチェルトの夕べ」**

2015年7月16日(木)、名古屋市中区の三井住友海上しらかわホールで、本学音楽学部演奏学科の特別演奏会である「コンチェルトの夕べ」が開演されました。

この演奏会は、コンチェルトをフル編成のオーケストラ(名古屋芸術大学オーケストラ)と競演するもので、出演する学生にとっては大変貴重な機会であるといえま

す。本学では音楽の表現を通して芸術を追求するという教育目標のもとに、学生の演奏会経験を必要不可欠なものとして位置づけ、「コンチェルトの夕べ」を開催しています。

名古屋芸術大学オーケストラは1983年に第1回定期演奏会を開催して以来、いままで優れたオーケストラ作品の演奏、著名なソリストとの競演などで音楽大学としてふさわしい演奏能力を着実に向上させてきました。最近では、合唱を伴うオーケストラ作品や大学のオペラ研究室によるオペラ公演の

伴奏、そして、ピアノコンチェルトの伴奏と、指揮者や充実したスタッフのもとで大学の総力をあげ

たオーケストラ演奏を展開しています。1993年オーストラリアのシドニーで初めて海外演奏会を行



1ピアノソロ 2クラリネットソロ



い、1997年には韓国の済州島で、1999年には米国のデンバーとロサンゼルスで演奏会を行っています。また、1990年から年に1回の定期演奏会のほか、大学の所在する北名古屋市での演奏会、音楽祭への出演、北名古屋市内の小学生を対象に音楽鑑賞会を行い、地域の音楽文化の発展にも寄与してい

ます。
オーケストラの指揮は、本学の客員教授でセントラル愛知交響楽団正指揮者の古谷誠一氏が執りました。
今回のソリストは、学内のオーディションで選ばれた学生とピアノコースの教員で、それぞれが精一杯の演奏を披露しました。

プログラムは、ピアノ協奏曲第4番ト単調（ベートーヴェン）の演奏で幕を開け、第1楽章を前川晶氏（本学非常勤講師）が、第2・3楽章を新井里奈さん（2年生）が演奏しました。
休憩を挟んで後半は、モーツァルトの「クラリネット協奏曲イ長調」を井上明日香さん（4年生）

が演奏しました。その後、シヨスタコーヴィチの「ピアノ協奏曲第2番ヘ長調」の第1楽章を小林碧葉さん（3年生）が、第2・3楽章を西村玲央奈さん（2年生）が演奏しました。
ソリストとオーケストラの息の合った演奏に各席からは暖かい拍手が送られていました。

音楽学部

**名古屋の夏はジャズが熱い!
「NAGOYA GROOVIN'
SUMMER 2015」が
行われました**

2015年7月25日(土)と26日(日)の両日、オアシス21・銀河の広場(名古屋市・栄)で行われたジャズライブステージ「NAGOYA GROOVIN' SUMMER 2015」に、東キャンパスの音楽学部から「JUMPA SWING ORCHESTRA」と「B-Style Big Band」の2つのバンドが参加しました。

この「NAGOYA GROOVIN' SUMMER」は、本学をはじめ、愛知の中高生や社会人などプロ・アマ問わず、ジャズをこよなく愛するビッグバンドたちが集結し、演奏を繰り広げる音楽イベントです。初日の25日は、イベントのオープニングアクトとして、「JUMPA SWING ORCHESTRA」がステージに登場。オリジナル曲の「ジャンパ・ジャイヴ」など、エンターテインメント性の高いバンドならではの元気でアップテンポな4曲を演奏しました。

また2日目の26日は、「B-Style Big Band」による演奏が行われ、日本を代表するサルサ・バンド

「サルサ・スィングサ」を主宰するパーカッション奏者の大儀見元さんをはじめ、宮川真由美さん、岡本健太さんをゲストに、「パロマス」や「オバタラ」といったラテンやサルサのナンバーを4曲熱演しました。さらに、ファイナーレでは、ゲストミュージシャンの小林香織さんと一緒にステージを大いに盛り上げました。

このオアシス21会場は、本学がサポートしており、25日は名古屋市立本城中学校、名古屋市立守山西中学校、名古屋市立工業高校、愛知中学・高等学校、愛知県立尾北高校のビッグバンドの皆さん、26日は名古屋市立若葉中学校、名古屋市立工芸学校、名古屋市立

向陽高校愛知県高等学校合同ジャズアンサンブルの皆さんによる、フレッシュで元気いっばいな演奏が披露されました。また、社会人

ビッグバンドやゲストプレイヤーの素晴らしい演奏に、会場に詰めかけた大勢の観客たちが酔いしれました。

出演バンド

【25日(土)】

- 名古屋芸術大学 JUMPA SWING ORCHESTRA
- 名古屋市立本城中学校
- 名古屋市立守山西中学校
- 名古屋市立工業高校
- 愛知中学・高等学校
- 愛知県立尾北高校
- RARE SOUNDS JAZZ ORCHESTRA
- AUTOBAHN JAZZ ORCHESTRA
- JABBERLOOP(ゲスト)

【26日(日)】

- Little Hills Jazz Orchestra
- 名古屋市立若葉中学校
- 名古屋市立工芸学校
- 名古屋市立向陽高校
- 愛知県高等学校合同ジャズアンサンブル
- Free Hills Jazz Orchestra
- Aisin All Stars
- 名古屋芸術大学 B-Style Big Band
- 小林香織(ゲスト)



1 オープニングアクトを務めたJUMPA SWING ORCHESTRA
2 ラテンジャズで盛り上げるB-Style Big Band
3 4 JUMPA SWING ORCHESTRAの演奏
5 6 B-Style Big Bandの演奏

音楽学部

**第17回
ピアノサマーコンサートが
開催されました**

2015年8月8日(土)、本学東キャンパス3号館ホールにおいて第17回ピアノサマーコンサートが開催されました。

このコンサートには、演奏学科ピアノコースの前期実技試験で優秀な成績を取った学生が選抜され

て出演しました。学生たちはこのコンサートに出演するために一生懸命練習を続けて本番を迎えました。特に、1年生にとっては、大学入学以来初めての公開演奏となりました。

プログラムは3部構成で、それぞれ1年生から3年生までの学生がショパンの「12の練習曲」や、ベートーヴェンの「ピアノソナタ」などを独奏しました。第1部で8名、第2部7名、第3部7名の



合計22名が出演しました。緊張しながらも懸命に演奏する

学生たちが微笑ましく感じられました。

人間発達学部

**人間発達学部の
オープンキャンパスが
開催されました**

2015年8月22日(土)、人間発達学部のオープンキャンパスが開催されました。会場の東キャンパスでは、体験授業やキャンパスツアーが催され、高校生のみならず

に学部の魅力を存分に体験していただきました。
人間発達学部のオープンキャンパスは午前と午後の2部構成で、午前のプログラムは学部の概要説

明や体験授業が中心です。参加者は受け付けを済ませ、1号館701号室で全体説明会を受けました。加藤義信学部長の開催挨拶の後、学生たちの進行による「学生トー

ク」が行われ、学内での生活や活発な部活動など、学生の実体験を交えたキャンパスライフが紹介されました。また、加藤聡一准教授がカリキュラムや教育内容、学校行事、入試情報などについて説明し、芸術大学の中で学ぶ幼児教育の特長や本学部で取得できる免許について詳しく解説しました。また、全体説明会のオープニングでは、音楽学部の学生による演奏も行われ、芸術大学ならではの演出に高校生たちも喜んでいました。

続く体験授業では、実際に学部で行われている3コースを高校生たちが受講しました。「描いて、作って、先生になろう！」(松實輝彦准教授)では、○△□をアレンジして海の動物を描くコツを学び、折り紙で紙飛行機を作って参加者全員で飛ばしっこを楽しみました。また、「正多面体を作ろう」(伊藤孝照講師)の授業では、正四面体から正二十面体までの5つの正多面体を、実際に画用紙を切

り抜いて組み立てるまでを体験。そして、「子どもの心を科学する」(中嶋理香教授)では、赤ちゃんが持つ素晴らしい能力について映像などを見ながら学びました。

この体験授業の後、参加者は6つのグループに分かれて昼食をとり、午後からはキャンパスツアー

に参加しました。キャンパスツアーでは、東キャンパス内にあるクリエ幼稚園や図書館、ピアノ練習室などを見学。そして、午後の体験授業「国語科指導法・詩を楽しもう」(久保博満准教授)を受講しました。他にも体育館を利用した学生との交流イベントや入試

相談なども開かれ、1日を通して参加した高校生たちはオープンキャンパスを満喫しました。

次の人間発達学部のオープンキャンパスにも、みなさまのご参加をお待ちしております。



1 加藤義信学部長の開催挨拶
2 全体説明会「学生トーク」の様子
3 音楽学部学生によるオープニング演奏
4 体験授業「描いて、作って、先生になろう！」
5 体験授業「正多面体を作ろう」
6 体験授業「子どもの心を科学する」
7 キャンパスツアー「クリエ幼稚園」見学
8 キャンパスツアー「図書館」見学
9 キャンパスツアー「にこにこワークショップ」見学
10 体験授業「詩を楽しもう」

美術学部 デザイン学部
美術学部・デザイン学部のオープンキャンパスが開催されました

2015年7月19日(日)、西キャンパスで美術学部・デザイン学部のオープンキャンパスが開催されました。今回のオープンキャンパスでは、実際に学生たちが普段から制作に打ち込む工房やアトリエを見学し、キャンパス内を彩るいろいろな作品を見ながら、高校生の皆さんにキャンパスライフを楽しんでいただきました。また、多彩なプログラムや公開授業により、美術学部・デザイン学部の魅力を直接体験していただく機会となりました。

今回のワークショップ(工房体験)では、美術学部では新しい試みとして、鏡を見ながら、色砂を使って自画像にチャレンジする「砂で描く自画像」(洋画)や、段ボール・新聞紙などを使い、動物や昆虫、オリジナルキャラクターなどを創作する「段ボールでフィギュアをつくろう」(コミュニケーションアート)、古代彫刻のマスクを見ながら、粘土を使って模刻にチャレンジする「マスクの模刻」(彫刻)などが登場。

一方、デザイン学部では、簡単な織り機を使いリストバンドを織ってみる「輪ゴムで織るリストバンド」(テキスタイルデザイン)や、できたてのポップコーン

を入れるバケツをいろいろな紙を使って作る「ポップコーンを入れるマイバケツを作ろう」(デザインマネージメント)などが加わり、人気のレギュラーワークショップとともに、参加者の皆さんに楽しんでいただきました。

U棟では、公開授業として特別客員教授の資生堂宣伝部・檜原由比子氏と実施した「生活を豊かにする新しいカレンダーの提案」は、提案性のあるオリジナルカレンダーの企画制作、パティスリー FUKAYA との産学連携活動による「美大生の想い、めしあがれ」と称したスイーツデザインの企画、それぞれの課題で制作した内容を教室に展示して講評会が行われま

した。両課題共、ヴィジュアルデザインコース4年生が4グループにわかれて取り組み、このオープンキャンパスの発表に向けて授業を重ね、最終プレゼンテーションとして高校生、保護者が見学する中、檜原氏、フカヤ氏に発表しました。

パティスリー FUKAYA との産学連携活動は半田市のケーキショップ「パティスリー FUKAYA」で実際に店舗で販売する生ケーキの商品開発を行い、学生たちが考案した生ケーキは、6月より月替わりで順次店舗で販売されています。この公開授業を見学した高校生たちは、「実際の授業を見ることができた！」と興奮冷めやらぬ

様子でした。

他にも、キャンパス内には多くの作品が展示されました。美術学部・デザイン学部の学生作品はG棟(美術学部)とX棟(デザイン学部)に、アート&デザインセンターでは、「スペースデザインコース展(くうねるところにすむところ展)」や「大学院コミュニケーションアートデザイン演習展『隣人』」などの展示が行われ、作品に触れた高校生たちは、将来の自分の夢と重ね合わせ、キャンパスライフのイメージを膨らませていたようです。

次の美術学部・デザイン学部のオープンキャンパスにも、多数のご参加お待ちしております。



1 砂で描く自画像(洋画)
2 段ボールでフィギュアをつくろう(コミュニケーションアート)
3 マスクの模刻(彫刻)
4 輪ゴムで織るリストバンド(テキスタイルデザイン)
5 ポップコーンを入れるマイバケツを作ろう(デザインマネージメント)
6 ヴィジュアルデザインコース公開授業「新しいカレンダーの提案」の様子
7 ヴィジュアルデザインコース公開授業「スイーツ・デザイン」の様子
8 美術学部の学生作品展示
9 デザイン学部の学生作品展示
10 アート&デザインセンター企画展

デザイン学部

官学連携プロジェクト
「名古屋芸術大学×
北名古屋市
市制施行10周年記念事業」

本学の所在する北名古屋市は、平成28年3月20日、市制施行10周年を迎えます。本学と北名古屋市は、10周年記念事業の推進にあたり、「市制施行10周年記念事業連携プロジェクト」を発足させ、本学は、10周年の基本理念や推進テーマが伝わるロゴマーク及びキャッチフレーズの制作、記念映像の制作、記念式典における演奏・演出を手掛けることになりました。

先行して行われているロゴマーク及びキャッチフレーズの制作は、本年5月8日からスタートし、デザイン学部の学生14チーム50名が取り組み、6月24日、学内で一次審査が行われました。その後、6月30日、北名古屋市自治体戦略推進本部会議において一次審査を通過した3作品が決定されました。

以上の経緯を踏まえて、2015年7月31日、北名古屋市役所西庁舎4階大会議室において、ロゴ

マーク及びキャッチフレーズ制作コンペ最終プレゼンテーション審査が行われました。

北名古屋市からは、審査員として、能村義則総務部長、森川三義総務部次長、鳥居竜也総務部経営企画課長が出席され、本学からは、デザイン学部教授の萩原周・榎田珠実、講師の永井瀧登が出席しました。能村義則総務部長の挨拶の後、早速、3チームによるプレゼンテーションが開始されました。

Aチームの作品のキャッチフレーズは「このまちとこれからも」で、北名古屋市の人・自然・特産物・施設など、さまざまな分野について愛着を持ってほしいという気持ちが込められていました。Bチームは「みんなで描く、ハートのまち」で、みんなが笑顔になれる温かなまちづくりができることを願ってのものでした。Cチー

ムは、「未来へひびけファンファーレ」で、北名古屋市10周年の祝祭を未来まで響かせてほしいという願いが込められていました。

学生によるプレゼンテーション終了後、審査結果が発表され、グランプリにはAチームの「このまちとこれからも」が選ばれました。今回採用されたロゴマーク及びキャッチフレーズは、北名古屋市

の広報誌やホームページを通じて市民の皆さんに周知されます。また、フェイスブックページや各種周年事業の告知、看板、記念グッズなどに統一的使用されることとなります。

なお、10周年記念映像はデザイン学部が制作を進めていて、式典演奏・演出は音楽学部が担当することになっています。



2



1



3

1 プレゼンテーションをするAチームの学生たち
2 グランプリを獲得したAチームの皆さん
3 審査会場の様子(手前は北名古屋市の審査員の皆さん)

美術学部

デザイン学部

一日芸大生
「みんなが芸大生になる日」
が開催されました

2015年8月2日(日)、今年も『一日芸大生』が開催されました。これは、小・中学生とシニアを対象に、芸術大学ならではの体験講座を通じ、一日キャンパスライフを楽しんでもらう催しです。趣向を凝らした美術学部とデザイン学部の14講座に、今年も多数の応募をいただきました。

会場となった西キャンパスには、始業時間に合わせて子どもたちや保護者の皆さんが集いました。学部ごとに行われた入学式では、学部長のウエルカムスピーチをはじめ、各講座の担当講師やチューターの紹介、スケジュール説明などが行われました。その後、参加者は受講コースごとに別れて教室に移動すると、担当講師から取り組みテーマや制作工程などの説明を受け制作に取りかかりました。

授業の合間のランチタイムでは、学生たちが考えた特製ランチを参加者の皆さんに楽しんでいただきました。最初は緊張気味だった子どもたちも、この頃にはすっかり仲良くなり、食事の間のおしゃべ



1



2



3



4



5



6



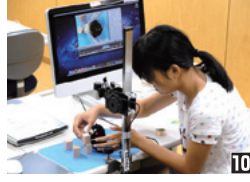
7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17

1 少し緊張気味な入学式
2 日本画コース「貝合わせを作ろう」
3 洋画コース「似顔絵」
4 アートクリエイターコース「彫刻」
5 アートクリエイターコース「ガラスアート」
6 アートクリエイターコース「陶芸」
7 アートクリエイターコース「消しゴム版画」
8 アートクリエイターコース「フィギュア制作」
9 楽しいランチタイム
10 メディアデザインコース「アニメーション」
11 インダストリアルデザインコース「プロダクトデザイン入門」
12 スペースデザインコース「イスのデザインと制作」
13 デキスタイルデザインコース「ミサンガ制作」
14 メタル&ジュエリーコース「ジュエリーデザイン」
15 デザインマネジメントコース「昆虫のデザイン」
16 イラストレーションコース「アート+町づくり」
17 卒業証書を受け取りみんなで卒業!

りも弾んでいました。また、チューターのお兄さんやお姉さんから大学のことや授業の話聞くなど、

楽しいランチタイムを過ごしました。午後からは保護者の皆さんを対象にした見学ツアーが開催され、

担当講師による大学の説明や制作現場の見学が行われました。授業の終了後には、この日制作

した作品などを持ち寄り卒業式が行われました。各コースからの実施報告の後、学部長より参加者全員に卒業証書が渡されました。保護者の方からは、「子どもたちの夏の自由研究に最適」といった評価などをいただくことができました。来年の一日芸大生にもぜひご参加ください。

当日行われた講座です。

●日本画コース「具合せを作ろう」

二枚貝の内側に思い思いの絵を描いて、みんなで神経衰弱をして遊びました。

●洋画コース「似顔絵」

有名人の写真などを見て似顔絵を描いて、講師やチューダーから

講評を受けました。

●アートクリエイターコース「彫刻」

テラコッタ粘土を使ってそれぞれ生き物を作りました。

●アートクリエイターコース「ガラスアート」

絵の具を塗った世界に一つだけのオリジナル風鈴を作りました。

●アートクリエイターコース「陶芸」

ロクロなどを使って鉢作りなどに挑戦しました。

●アートクリエイターコース「消しゴム版画」

絵本のキャラクターをアレンジした消しゴム版画を作りエコバックに押ししました。

●アートクリエイターコース「フィギュア制作」

紙やダンボールを使って動物などオリジナルフィギュアを作りました。

●メディアデザインコース「アニメーション制作」

ビデオカメラとコンピュータを使って、コマ撮りアニメに挑戦しました。

●インダストリアルデザインコース「プロダクトデザイン入門」

木型を作って真空成型を体験。完成した型でオリジナルゼリーも制作しました。

●スペースデザインコース「イスのデザインと制作」

木と鉄パイプを組み合わせたイ

ス作りに挑戦しました。

●メタル&ジュエリーデザインコース「ジュエリー制作」

ペンダントや指輪など、シルバーアクセサリーを制作しました。

●テキスタイルデザインコース「ミサンガ制作」

カラフルな糸を使って手作りのミサンガを作りました。

●デザインマネジメントコース「昆虫のデザイン」

紙などを使い、架空の昆虫を作り標本にしました。

●イラストレーションコース「アート+町づくり」

発泡スチロールで不思議な実のなる木を作り、みんなで町作りをしました。

美術学部 デザイン学部
芸術大学連携プロジェクト
Sky Over 1が
開催されました

第1回あいちトリエンナーレ2010で、展示会場の一つであった「アートラボあいち」が「あいちトリエンナーレ2016」に向けて再始動することになりました。

2016年8月11日から10月23日まで行われる「あいちトリエンナーレ2016」のテーマは、「虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅」です。

あたらしいアートラボあいちでは、これまでのように愛知県内の三つの芸術大学（愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学）による展示が定期的に行われます。

このたび、2015年8月7日(金)から9月27日(日)まで、三つの芸術大学が合同で行う展覧会「Sky Over 1」が、あいちトリエンナーレ2016のテーマを意識しつつ開催されました。

本学卒業生からは、4名の作家



アートラボ長者町
1 山口貴子 / Transfer Land
2 小濱史雄 / プリントバック
3 水口智之 / form
4 佐藤 翠 / Small Closet XI Encrusted carpet II Small Closet XII

アートラボ大津橋
5 水口智之 / transform
6 山口貴子 / Lost every day
7 小濱史雄 / デフォルトな旅
8 佐藤 翠 / Encrusted black carpet Leaf green closet

(小濱史雄・佐藤 翠・水口智之・山口貴子)が参加出品しました。

<Sky Over 1>

●会期 2015年8月7日(金)から9月27日(日)

●会場 アートラボあいち大津橋

(開館日: 金・土・日・祝)

アートラボあいち長者町

(開館日: 木・金・土)

●開館時間 11:00-19:00

(金曜日は20:00まで)

●主催 愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学、あいちトリエンナーレ実行委員会

Column NUA No.30

卒業生と話して考えたこと

デザイン学部教養部会講師 木村美奈子

名芸大に勤めて5年が過ぎました。私は心理学が専門ですが、芸術の鑑賞は大好きなので、芸術を学ぶ在校生や卒業生と話をするのはとても楽しいです。もう昨年のことですが、画家として活躍している卒業生の和田唯奈さんとお話しました。和田さんは2012年に若手アーティストのプロへの登竜門GEISAI #17で鈴木心賞を受賞し、その後、オランダの画廊と契約を結び、アムステルダムを拠点に活動をしています。

和田さんと話をすると、いつもいろいろなことを考えさせられます。例えば、人は皆、幼い時は絵を描くのが大好きなのに、なぜ大人になると大半の人は描かなくなってしまうのか。私も子どもの頃は絵を描くのが好きでしたが、ある時から全く描かなくなりました。私と和田さんの違いは何なのでしょう。和田さんに小さい頃の話聞いたところ、和田さんは幼稚園時代からずっと、周りの子どもたちから「絵の上手い子」として認識されていたのだそうです。園児の時からその才能を発揮していた点が、まず私と大きく違うところ。他者からの「絵が上手い」という評価は、絵を描き続けるモチベーションを支えていると考えられ

ます。他にどのような動機づけがあるのでしょうか。スイスにあるアールブリュット美術館で、絵の訓練を全く受けていない画家たち(多くは精神疾患を患っていた人々)の絵を見たことがあります。彼らの絵の特徴としては、何らかのモチーフが繰り返し描かれており、これでもかこれでもか、と観る者に迫ってくるようでした。彼らの絵は人に見せるために描かれたのではなく、自分の中に湧き上がる衝動を形にしたものようです。自分の中に湧き上がったものを吐き出す作業は快感を伴います。これは論文を書くこととも似ているので、私にも理解できます。その快感こそが新たな作品に取り込むモチベーションにつながって

クリエイティブ幼稚園

クリエイティブ幼稚園では、毎年1学期の終わりに、年長児が幼稚園で『お泊り保育』を行っています。しかし、今年は、その時期に台風が接近し、約1か月の延期となり、8月27日～28日に実施しました。

「ドキドキするけど楽しみ!」「泊るの、ちょっと心配だなあ」などと、子どもたちの気持ちはさまざまなようでしたが、お家の方に見送られて登園しました。

まず、始めに夕食のカレー作りです。エプロンや三角巾を身に着け、グループに分かれてジャガイモやニンジン、タマネギを切りました。「お家でお手伝いしたことあるよ」と慣れた手つきで包丁を持つ子もいれば、中には慎重にゆっくり野菜を切っている子もいました。自分たちで切った野菜が入ったカレーは、給食のカレーよりも何倍もおいしかったようです。

食後は、遊戯室に移動し、布団やシーツを敷きました。「だれか手伝って」「ここに並べよう」と一人では重くて持てない布団を友達と一緒に運んだり、二人でシーツの端を持って広げたりし、遊戯室いっぱいには布団を敷き詰めました。子どもたちは、「〇〇ちゃん、一緒にここで寝ようよ」と場所を決めている子、「ゴロン、ゴロン」と転がっている子など、布団の上で遊び場になっていました。

次は、スタンプラリーです。外はすっかり暗くなり、時刻は、夜の7時過ぎ。グループの友達と一緒に、園庭の3箇所のポイントにいる先生から出題される問題に答えます。「〇〇ちゃん、手をつないでね」「みんなで一緒に行こうね」「大丈夫、ぼくが先頭で行くから」などと子どもたち同士、声を掛け合っている優しい姿が見



れました。ゴールでおみやげをいただき、保育室に戻ってきた子どもたちは、自分たちの力でゴールできたという満足げな表情が見られました。

そして、今度は先生による花火の打ち上げです。子どもたちは、順番に噴き出す花火や、赤や緑、金色にパチパチと光る花火に「どうして、先生たちが打ち上げ花火ができるの?」「すごい!」「きれい!」と大喜びでした。

楽しいイベントが終わったあとは、就寝の準備です。あちこちで話し声や笑い声が聞こえたり、何度もトイレに行ったりと、なかなか寝ることができないようでした。それでも、徐々に静かになり、いつの間にか、子どもたちは夢の中でした。子どもたちの寝相といったら・・・隣の子と顔をくっつけていたり、床で寝ていたり、顔の隣に足があったりと、寝ながら元気に動いている子もいました。

翌日の朝は、5時前から一人起き、二人起きと、6時過ぎには、



ほとんどの子が起きていました。何人かの子どもたちは、すでに起きた子どもたちの話し声や、布団の上を歩き回る足音にも動じず、スヤスヤ寝ていました。

着替えた後は、朝の散歩です。幼稚園近くの田んぼのあぜ道を歩き、畑仕事をされている方と挨拶をしたり、花や虫を探したりと、気持ちのよい朝の空気を吸いながら、子どもたちの眠気もすっかり覚めたようでした。

そして、園に帰り、みんなで、シーツや布団をたたみました。子どもたちが張り切ってたんだり、運んだりしたので、あっという間に片付けることができました。

朝食の後は、お楽しみの「ミニ夏祭り」です。遊戯室は、魚釣りや缶積み、的当てのコーナーができ、カキ氷やさんのお店もできました。今回は、12名の「おじいちゃん・お父さんサポーターズ」の方々にご協力いただきました。緑日コーナーの相手、また、園庭では、鬼ごっこやしゃぼん玉で遊

んでいたたりしました。おじいちゃん方やお父さん方は、いろいろな子どもたちともかわってくださり、子どもたちは、普段にはない経験ができ、とても楽しそうでした。

そして、遊んだ後に、サポーターズの方々と一緒に、みんなでおやつを食べ、楽しかった出来事をふりかえり、「お泊り保育」が終わりました。

今回の「お泊り保育」では、名古屋芸術大学人間発達学部の6人の学生が実習生として参加し、準備や子どもへのかかわり、片付けなど職員のサポートをしてくれました。

子どもたちは、この「お泊り保育」で、友達と一緒に過ごす楽しさ、友達と協力することの大切さなどを、経験とおして学ぶことができました。子どもたちにとって幼稚園での大切な思い出の一つになったことと思います。

いるのでしょう。ただ、湧き上がるものを思いどおりの形に示すのは簡単なことではなく、ここで私のように絵にすることを諦める者も出てくるのだと思います。

和田さんもこんなことを話してくれました。「子どもの頃は描きたいことがあっても、技術面が追いつかなくて描けなかった。中学2年の時、描きたい絵が描けて、わーっとなった。これで生きていくと思った。その時から、描きたいことは変わっていない」これを聞いた時、吉本ばななが『キッチン』の単行本のあとがきに書いていたことを思い出しました。「私は昔からたったひとつのことを言いたくて小説を書き、そのことをもう言いたくなくなるまでは何が何でも書き続

けたい」私が研究者を目指すことに決めた時も、実は同じような体験がありました。心理学に会った時、私は初めて自分の中に湧き立つ「何か」を認識し、また研究法を知った時、それを吐き出す道具を与えられた気がしました。その「何か」はそれ以来、ずっと変わっていませんし、そのことを言うために、私は今も研究を続けています。

和田さんは絵という道具を与えられ、私は研究という道具を与えられました。道具は違っても同じ思いを持っていることがとても嬉しく、芸術と研究はそんなに離れてはいないと実感したのでした。



和田唯奈さんの作品「The secret」2013

マスター ↑↓to アーティスト

【第30回】

〈自分の演奏を
探して、伝えて〉



5人のうち3人が音楽家になった音楽一家の末っ子。バイオリンを始めたのは6歳の頃。本格的に練習を始めたのは中学になってから。

森 典子 音楽学部
教授
(もり のりこ)

愛知県生まれ
1970年 愛知県立芸術大学音楽学部器楽科卒業
1972年 愛知県立芸術大学大学院音楽研究科修了
1973年 本校音楽学部非常勤講師着任
1996年 ウィーン音楽大学研修員



名古屋芸大の常勤講師になった頃の写真



ウィーンから帰り開催したリサイタルの時の写真



「今の子どもたちは、あきらめるのが早い。なんとかなりそうでも、他の子とちょっと比べてみて負けそうだとパッと止めちゃう。今はコンクールがたくさんあって、自分がどの程度なのかがわかると、すぐに見切りを付けてしまう。決断が早すぎます」どこか悔しそうな口調でいった。

研究室は簡素な部屋だった。バイオリンのレッスンをやりやすいように机は壁に追いやられ、中央に大きなスペースが確保されている。女性の部屋にありそうな花やぬいぐるみなどはなく、飾り気はまったくない。バイオリンを弾くとために最適のように整えられているだけだ。目的のためにできることをやる。そのためもっとも理にかなった方法を探っただけ。そんな考えを物語っているようだ。この部屋でレッスンを受け、目の前が開けた学生もいれ

ば、厳しい指摘に涙が止まらなくなった学生もいたことだろう。いずれにせよ、歯に衣着せぬものいいは、教えるを請う者の胸の深いところにまで届いているはず。

学生時代に、仲間と音楽について批評する会を始めた。「最初は先生に対する愚痴ですよ(笑)。自分が学生の頃、自分が最高だと思ってやったことでも人の評価とつながらないことが多いわけです。それで、ひたすらレコードや録音したテープなどを聞き、それをまですべて批判することから始めてみました。いろいろな話をしました。例えば演奏する者は暗譜が当たり前だったんですが、暗譜してがむしゃらに弾くことが必ずしもいいわけではないとか、心に染みるとはどういうことかとか、誰かが簡単な曲を弾いてそれを批評する会であるとか」何を目標にしたらい

いかさっぱり見えず、とりあえず自分自身勉強していこうという思いの中で、なんとか人に伝わる音楽がしたい、見つけたいと続けてきたという。この会は“名古屋音楽研究会”という団体であると大きく謳っていたが…「それぞれの生活がはっきりしてくると、集まらなくなってしまいました。当時のメンバーは現在も気の置けない仲間として親交があり、辛辣な批判ももらったりしています」大学院を卒業後、こういった活動が評価されて講師の仕事を受ける。そして、このときから演奏家と教育者などと難しく考える暇もなく“教えるために演奏する”大学院を修了して目標を持つとは考えることが出来ず、とりあえず仕事 came! それで教えるために自分が演奏するという姿勢で現在まで来たという。「一時期、名フィルにも行きましたが、私は不器用で皆に



父親は小学校教諭。音楽に造詣が深く学校でオーケストラを編成し指導にあたっていた。週末ごとに子ども達が練習のため自宅を訪れ、いつも賑やかだった。

教え子達と。一緒に写り込んでいるのは本学講師時代の高橋律也氏。「やる気がある人は伸びる」と言い切る。それだけに早々にあきらめてしまう昨今の風潮を憂いている。



高校生の頃。兄の伴奏で

バイオリンを伊藤美佐子、中村桃子、F.リヒネフスキーの各氏に師事。学生時代から仲間と名古屋音楽研究会を作り活動。結婚、出産を経て、育児のかたわら演奏活動を再開し、1983年にソロリサイタル、ジョイントリサイタル、室内楽などで活躍。以降、現在まで年数回の演奏会に出演。

ついていくのが大変で、結局半年ほどで辞めてしまったんです。時間をかけないと弾けなくて…今思えば、そこがプレイヤーになっていくかの分岐点だったように思います」かくして、教育者として進むことを決意する。教育者になると決めると、今度は教えるということを追求していくことに向かう。そして一つの考えが導き出される。「演奏することを教えるには、自分が演奏しない限り、常に新鮮な体験としない限り、駄目だろうと考えました」教えるために演奏する。音楽と教育に対する真摯な姿勢が伝わってくる。

結婚後、育児をしながらも教える仕事は続けた。「双子なので人一倍手がかかりましたか？」と言われますが。そんなものなのかと過ぎていった気がしません(笑)。さすがに子どもが小さな頃は演奏を休んでいましたが、3歳になっ



人に演奏することを教えるために自分が演奏しなければいけない。自分がやるからにはきちんと演奏したい。その思いだけです。



森典子 & ファルヴァイ・シャンドールリサイタルより ベートーヴェン：ソナタ 第9番 イ長調 Op.47「クロイツェル」第1楽章 森典子(ヴァイオリン) ファルヴァイ・シャンドール(ピアノ)



たら再開しようと決めていました。3歳になったとき、今日から弾くんだと、子どもを寝かせ夜中になってから練習していました。4歳のときに小さな演奏会ですけど出演し、その後、初めてのソロリサイタルを開きました」家族の深い理解と大きな協力あつてのことだとはわかるが、一度選んだ自分のことへの責任の強さを窺わせる話だ。子育ての手が離れると、若い頃にあきらめた海外留学も果たした。いつまでもあきらめず、自分の信じたことをやり続ければ、必ず実現できるとまさに身をもって、行動で示している。

「演奏で対話がしたいんです。言葉では、こんな微妙なこと聞いてもらえない、と思うようなことでも、演奏ではすぐわかってもらえたり、伝わってきたりすることがあります。そういうやりとり、音楽の中に情景が見えたら



1997年ウィーンでのリサイタル。ピアニスト マインハルト・プリンツ氏とプリンツ氏と子息 シモン君



リサイタルに来てくれた芸大卒業生、若田さんと



ウィーン音大「ジークフリート・フューリンガー夫妻」



名古屋でフューリンガー先生とリサイタルをした時



ウィーン滞在中、生涯の友となったヴァイオリニストと、彼女の家で。



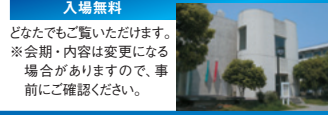
弦楽器生オーケストラ演奏会本番前 2009年



教えるために舞台上立つ。その思いから毎年の演奏会を続けている。

と思っています。技術的な上手い下手よりも、ちゃんと伝えることが一番大切じゃないかと思います」人に演奏することを教えるために自分が演奏しなければいけない、自分がやるからにはきちんとした演奏がしたい、強い思いが行動に表れる。

弦楽器は、他の楽器よりも積み重ねが重要だという。「頭と能力だけではどうしようもないところがあるんです。音色というか微妙な音程というか。長くやってきた人、若いときに必死でやった人というのは違いますね」自分の音楽を探し、その作業を積み重ねることの大切さをかみしめるように語った。壁に当たってもあがき続けなさいと、厳しくも優しく教えてくれる。「自分には演奏家としてやっていけるほどのエネルギーがない」というが、音楽への強い信念に圧倒された。



アート&デザインセンター
2015年度展覧会スケジュール(予定)

10/30(金)~11/ 4(水)	アーツラジオ&大学院同時代表現研究企画
11/ 6(金)~11/11(水)	遭遇するドローイング;ハノーファー&名古屋2015
11/13(金)~11/18(水)	MCDデパートメント
11/20(金)~11/25(水)	『幼稚園児たちのゲイジツ 2015』展
11/20(金)~11/25(水)	『Handshospace: 医療と美術』展
11/27(金)~12/ 2(水)	洋画2コース 2年生選抜展(仮称)
12/ 4(金)~12/ 9(水)	メディアデザインコース展
12/11(金)~12/16(水)	こどもの空間 絵本と椅子
12/11(金)~12/16(水)	2015年度後期留学生作品展
12/18(金)~12/23(水)	日本画3年作品展
12/18(金)~12/23(水)	洋画2コース二人展(仮称)
12/18(金)~12/23(水)	『博物館とアートの出会い』(仮称)
1/ 8(金)~ 1/13(水)	ガラス・陶芸コース2・3年生合同展覧会(仮)
1/15(金)~ 1/20(水)	美術学部コース展
3/ 1(火)~ 3/ 6(日)	第43回名古屋芸術大学卒業制作展

Open/12:15~18:00(最終日は17:00まで)
日曜・祝祭日原則休館
お問い合わせ先 / Tel. 0568-24-0325

2015年度
音楽学部演奏会スケジュール(予定)

11月	室内楽の夕べ(小編成の部) 日時/2015年11月12日(木)17:30開演予定 会場/電気文化会館 サ・コンサートホール 入場料/無料(全自由席)	オペラ公演 『あまんじやくととりこひめ』『子供と魔法] 日時/2016年2月26日(金)18:30開演予定 会場/西文化小劇場 入場料/未定
音楽学部 第38回定期演奏会 日時/2015年11月19日(木)18:00開演予定 会場/三井住友海上 しらかわホール 入場料/無料(全自由席)	オペラ公演 『あまんじやくととりこひめ』『子供と魔法] 日時/2016年2月27日(土)14:00開演予定 会場/西文化小劇場 入場料/未定	
室内楽の夕べ(大編成の部) 日時/2015年11月28日(土)18:00開演予定 会場/名古屋芸術大学音楽学部3号館ホール 入場料/無料(全自由席)	3月	
12月	第18回 電子オルガンコース定期演奏会 『Earth Echo』 日時/2015年12月10日(木)18:30開演予定 会場/熱田文化小劇場 入場料/無料(全自由席)	第18回 大学院音楽研究科修了演奏会 日時/2016年3月3日(木)18:00開演予定 会場/三井住友海上 しらかわホール 入場料/無料(全自由席)
2月	第14回 歌曲の夕べ 日時/2016年2月4日(木)18:30開演予定 会場/熱田文化小劇場 入場料/無料(全自由席)	ミュージカル公演 日時/2016年3月4日(金)18:00開演予定 会場/アートピアホール 入場料/無料(全自由席)
2015年度 研究生修了演奏会 日時/2016年2月9日(火)18:00開演予定 会場/電気文化会館 サ・コンサートホール 入場料/無料(全自由席)	第43回卒業演奏会 日時/2016年3月10日(木)17:00開演予定 会場/三井住友海上 しらかわホール 入場料/無料(全自由席)	
大学院音楽研究科特別演奏会 日時/2016年2月12日(金)17:45開演予定 会場/名古屋芸術大学音楽学部3号館ホール 入場料/無料(全自由席)	※予定につき変更になる場合がありますので、事前 にご確認ください。 お問合せ先/名古屋芸術大学音楽学部演奏課 Tel. 0568-24-5141 ※オペラ公演については(株)クリアール Tel. 0568-26-3355にお問い合わせください。	
第20回 春のコンサート ピアノのしらべ 日時/2016年2月19日(金)17:30開演予定 会場/熱田文化小劇場 入場料/無料(全自由席)	チケットお取り扱い場所	
アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン 第17回定期演奏会 日時/2016年2月20日(土)14:00開演予定 会場/名古屋芸術大学音楽学部3号館ホール 入場料/無料(全自由席)	●名古屋芸術大学音楽学部演奏課 Tel. 0568-24-5141 ●名古屋音楽学校 Tel. 052-973-3456 ●愛知芸術文化センター-B2Fプレイガイド Tel. 052-972-0430 ●ヤマハミュージック東海名古屋支店 プレイガイド Tel. 052-201-5152 ●カワイ名古屋 Tel. 052-962-3939 ※オペラ公演については(株)クリアール Tel. 0568-26-3355に お問い合わせください。	
カレードスコープ2016 日時/2016年2月21日(日)16:00開演予定 会場/名古屋芸術大学音楽学部2号館 大アンサンブル室 入場料/無料(全自由席)		

名古屋芸術大学2016年度入試日程

(試験日が10月以降の日程のみ掲載)

学部	入試種別	出願期間	試験日	合格発表日
■音楽学部	A0入試(A)(B)	9月10日~9月24日	10月 4日	10月 9日
	推薦入試・留学生	10月 7日~10月29日	11月 7日	11月13日
	3年編入試(前期)	10月 7日~10月29日	11月 7日	11月13日
	3年編入試(後期)	1月 5日~1月22日	2月 6日	2月12日
	一般A日程 社会人・留学生入試	1月 5日~1月22日	2月5日・6日	2月12日
■大学院音楽研究科	A日程入試	11月10日~11月27日	12月 5日	12月11日
	B日程入試	2月12日~3月17日	3月25日	3月26日
■研究生	研究生入試	2月12日~3月 3日	3月 8日	3月10日
■美術学部	推薦入試	10月16日~10月30日	11月 8日	11月13日
	自己推薦入試	11月27日~12月11日	12月19日	12月25日
	3年編入Ⅰ期入試	10月15日~10月29日	11月 7日	11月13日
	地域入試(浜松・金沢)	11月11日~11月25日	12月 5日	12月11日
	地域入試(高知・長崎・沖縄)	11月18日~12月 2日	12月12日	12月18日
	A日程第一方式(センタープラス)	1月 8日~1月22日	2月 5日	2月 9日
	A日程第二方式(一般試験)	1月 8日~1月22日	2月 5日	2月 9日
	社会人・シニア・社会人3年編入入試	1月15日~1月29日	2月 9日	2月12日
	3年編入Ⅱ期入試	1月15日~1月29日	2月 9日	2月12日
	センター利用入試(前期)	1月18日~2月 1日	センター試験のみ	2月12日
	B日程第一方式(センタープラス)	2月18日~3月23日	3月25日	3月25日
	B日程第二方式(一般試験)	2月18日~3月23日	3月25日	3月25日
センター利用入試(後期)	2月19日~3月18日	センター試験のみ	3月25日	
■大学院美術研究科	Ⅰ期入試	10月15日~10月29日	11月 7日	11月13日
	Ⅱ期入試	1月20日~2月 3日	2月11日	2月19日
	研修生入試	1月20日~2月 3日	2月11日	2月19日
■研究生	研究生入試	2月29日~3月 7日	3月14日	3月16日
■デザイン学部	推薦入試	10月16日~10月30日	11月 8日	11月13日
	自己推薦入試	11月27日~12月11日	12月19日	12月25日
	3年編入Ⅰ期入試	10月15日~10月29日	11月 7日	11月13日
	地域入試(浜松・金沢)	11月11日~11月25日	12月 5日	12月11日
	地域入試(高知・長崎・沖縄)	11月18日~12月 2日	12月12日	12月18日
	A日程第一方式(センタープラス)	1月 8日~1月22日	2月 5日・6日	2月 9日
	A日程第二方式(一般試験)	1月 8日~1月22日	2月 5日・6日	2月 9日
	社会人・社会人3年編入入試	1月15日~1月29日	2月 9日	2月12日
	3年編入Ⅱ期入試	1月15日~1月29日	2月 9日	2月12日
	センター利用入試(前期)	1月18日~2月 1日	センター試験のみ	2月12日
	B日程第一方式(センタープラス)	2月18日~3月23日	3月25日	3月25日
	B日程第二方式(一般試験)	2月18日~3月23日	3月25日	3月25日
センター利用入試(後期)	2月19日~3月18日	センター試験のみ	3月25日	
■大学院デザイン研究科	Ⅰ期入試	10月15日~10月29日	11月 7日	11月13日
	Ⅱ期入試	1月20日~2月 3日	2月11日	2月19日
	研修生入試	1月20日~2月 3日	2月11日	2月19日
■研究生	研究生入試	2月29日~3月 7日	3月14日	3月16日
■人間発達学部	A0入試(B日程)	9月 3日~9月18日	10月 4日	10月 9日
	3年編入A日程入試	10月 7日~10月28日	11月 7日	11月13日
	推薦入試A	10月 7日~10月29日	11月 7日	11月13日
	推薦入試B	11月 4日~11月20日	11月28日	12月 4日
	社会人入試	11月 4日~11月20日	11月28日	12月 4日
	大学入学資格審査入試	11月 9日~11月24日	12月23日・29日試験	2月10日
	一般A日程入試	1月 5日~1月28日	2月5日・2月6日	2月10日
	センター前期入試	1月 5日~1月28日	センター試験のみ	2月10日
	一般B日程入試	2月12日~3月 3日	3月 9日	3月11日
	センター後期入試	2月12日~3月 3日	センター試験のみ	3月11日
	3年編入B日程入試	2月10日~3月 1日	3月 9日	3月11日
	■大学院人間発達学研究科	一次入試	9月 3日~9月18日	10月 4日
二次入試		11月 4日~11月26日	12月 5日	12月11日
三次入試		2月10日~3月 1日	3月 9日	3月11日
■研究生	研究生入試	2月12日~3月 3日	3月 8日	3月10日

※(注)各入試で実施されるコースや専攻の詳細及び指定校推薦など上記以外の入試については、学生募集要項を参照してください。

表紙の写真/本学カーデザインを専攻した卒業生たちの作品

「Allez」佐藤友哉
「モナカー」佐藤友哉
「ELECTRIC POWER MOTOR BIKE」伊藤龍
「FOOT PLUS」宮下篤子

「名古屋芸大
グループ通信」
ウェブサイト

発行: 名古屋芸術大学
企画・編集: 全学広報誌編集委員会
デザイン協力: くまな工房一社
印刷: 株式会社クイックス
発行日: 2015年10月30日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市西之庄吉281番地
電話 0568-24-0359
FAX 0568-24-0369
E-mail: grouptu-shin@nua.ac.jp

Association Japan University Accreditation

UNIVERSITY ACCREDITED
2011.4~2018.3

大学基準協会の認定評価を再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。

※記事中のホームページアドレスは、掲載先の諸事情で移動や閉鎖されている場合がございます。あらかじめご了承ください。